

ひと
女

ひと
男

男女が共に生きるメッセージ

パートナーシップ

問合せ先 総務広報課男女共同参画推進室 ☎72-2111

いっそうの女性活躍を

女性の自治会への参画について区長にインタビュー

多くの女性が自治会などの活動に日常的に参加する中、役員などの役職を務める女性はまだまだ少ないのが現状です。しかし、これから自治会活動を続けていくためには、性別に関係なくさまざまな視点や発想を取り入れ、広く住民で担っていくことが重要です。

女性の自治会への参画をテーマに、今年度の市内唯一の女性区長である野中雅子さん(駅前区長)、積極的に区の役員に女性を登用している秋山富雄さん(下町区長)に話を伺いました。

「できることから」

区長になったきっかけは

平成27年、夫の体調不良により、やむなく52年間続いた呉服店を廃業しました。その年の4月から夫が引き受けていた区長の職を代行し、次の年から正式に区長になり、5年目を迎えます。

区長としてどんなことをしてきましたか

区の財政を見直すにあたり、資源回収の協力を呼びかけて収入を増やしました。また、市の補助金を使って防犯灯のLED化を進め、電気代を減らしました。さらにその収入・支出の変化を年度ごとに明示し、区の皆さんに伝えました。結果として、区の財政が豊かになり、その分、区のレクリエーションを充実させました。区民約130人が、バス3台でミカン狩りに行き、一緒にバーベキューをします。これをきっかけに、若い人にも地域の自治に興味を持ってもらうことを期待しているところです。

今後ますます女性の活躍が期待されますね

PTA活動などで活躍している女性がたくさんいます。その人たちが、子どもの成長後、時間に少し余裕ができたときに、できることから自治会活動に参加してほしいです。そのためには、家族の理解と協力が不可欠ですね。

私は、区長職をするにあたって、区長会の皆さんに温かく迎えていただきました。多くの人の協力もあり、女性ということで、特に困ったこともありませんでした。現代は、男性だから女性だからという時代ではないと思っています。



駅前区長 野中 雅子さん

保険会社に5年間勤めた後、結婚を機に小郡市へ。昭和47年から家業の呉服店の経営に43年間携わる。平成17年から10年間、ネットショップの運営も手がけた。趣味はパソコン。特技は着物の着付。

小郡市の地域における役職などへの女性の参画状況(令和2年6月1日現在)

右表のとおり、行政区長や自治公民館長などの役員は、ほとんどが男性です。しかし、みんなが暮らしやすい地域にするためには、男性と女性の意見をどちらも取り入れる必要があります。

市では、地域活動や地域の役職に男女がともに参画できるよう、今後も女性の積極的な登用を推進していきます。

	総数	うち女性の数	女性比率
区長	62	1	1.6%
民生委員・児童委員	94	74	78.7%
小学校PTA会長	8	0	0%
中学校PTA会長	5	2	40.0%
自治公民館長	69	1	1.4%
スポーツ推進委員	17	4	23.5%



下町区長 秋山 富雄さん

40余年、郵便局に勤務したあと、下町区の議員、役員を歴任。区長代行を経て区長に。郵便局勤務の頃から、男女共同参画などの知識を持っていたので、区長をするにあたって、女性の登用を進めた。趣味は釣り。

「地域の将来のために」

なぜ区の運営に積極的に女性を登用したのですか

私は、区の運営を担う次の世代を育てるために、女性や若い世代に積極的に声かけをして、交流するようにしてきました。今までのように男性中心の運営では、次の世代の役員が先細りします。地域の担い手として、女性の力を生かして前面に出てもらうことで、次の世代を育てることにつながると考えています。区の運営や、地域行事への中心的な役割に女性が参画する突破口としたいです。

女性を区の役員に登用したことで、どんな効果がありましたか

自治会活動が活性化されました。また、若い人や女性のおかげで会議自体が和やかになった印象もあります。

今後の区の運営について、展望を教えてください

行事の運営を分担し、その中に女性の力を積極的に取り入れたいと考えています。まずは、その人が得意な分野をお願いするようにしています。経験を積んでもらい将来的には役員を担ってもらえたらと思います。

今後、地域が生きるといえるような組織を作るためには女性の力は不可欠です。多くの区民がいろいろな行事に生き生きと参加できるようにしたいです。